

洞爺湖サミット
G8開発大臣会合

4月5、6日の両日
東京にて会合が開かれました。

小生は、
G8開発大臣レセプション
(飯倉公館)に招聘され
各国の大臣や関係者と
「水問題について」語って
来ました。

右の記事は
2008年4月7日
日経新聞です。

グローバルウォータ・ジャパン
吉村 和就

洞爺湖サミット
G8開発相会合

新興援助国と対話

議長総括 アフリカ支援明記

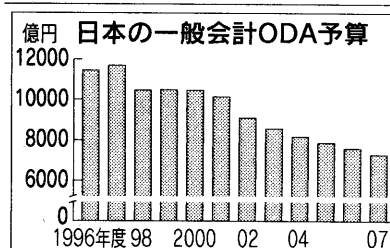
途上国への援助問題を協議する主要八カ国(G8)の開発相会合は六日、新興の援助国とG8の協力をうたった議長総括をまとめて閉幕した。日本は長年の援助の実績を生かし、七月の主要国首脳

会議(洞爺湖サミット)に向けた議論を主導する構え。しかし政府開発援助(ODA)減少が続くなか、どこまで指導力を発揮できるか不透明だ。高村正彦外相が発表した議長総括ではアフリカ

支援の拡大を明記。地球温暖化対策に取り組む途



記者会見する高村外相(中央)ら各国の担当相(6日午後、東京都港区)



上国への支援を「喫緊の課題」と位置づけた。六日午後の討議では食料価格の高騰の影響を懸念する声相次ぎ、G8が協調して対策を練るべきだとの認識でも一致した。

二日間の会合で大きな焦点になったのが中国や韓国、インドなど新興の援助国とG8の協力体制の構築だ。議長総括では「政策対話と情報共有」の拡大を申し合わせた。

とくに中国は二〇〇三年からの二年間で対外援助を四割以上も増やしている。G8側には新興国の援助資金を活用し、懸案のアフリカ支援などで成果を上げたい思惑がある一方、独裁政権への支援をいとわない中国などへの懸念もある。

高村外相はこうした懸念を踏まえ、閉幕後の記者会見で「援助は共通の価値観に基づいてやらないといけない」と力説。議長総括では「良い統治が(アフリカ)開発の前提条件」と明記し、新興援助国が人権を無視した援助に走らないようウギを刺した。

ただ、肝心の日本の支援体制はお寒いばかり。経済協力開発機構(OECD)がまとめた〇七年のODA実績で、日本の順位は前年の世界三位から五位に後退した。高村外相は五日の冒頭発言に続き、六日の記者会見でもODAの減少傾向を「底打ちさせ、反転攻勢させる」と増額の決意を訴えたが、実現は容易ではない。